

【視察調査報告書】

委員会名	文教経済委員会	
派遣委員名等	【委員】 10名 西本和也委員長、森屋昌彦副委員長、岸田功典委員、望月翔平委員、木田彩委員、西山賢委員、星野直美委員、吉本孝良委員、中島正寿委員、村松徹委員	
日 程	令和2年10月26日（月曜日）	
視察先	1 八王子市立高尾山学園 不登校の児童・生徒のための公立小中一貫校について 2 高尾山薬王院・八王子城跡・（有）オカド染色工業 日本遺産ストーリー：「霊気満山高尾山～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～」に関連する構成文化財について	
実施の経緯	当委員会におきましては、これまで、本市の取組をリードすべく先進事例を視察し、調査研究を行ってまいりましたが、いまだ新型コロナウイルス感染症の収束の目途が立たないことから、今年度は遠隔地への行政視察を自粛することといたしました。 しかし、学びを止めてはならないとの委員の総意により、市内における全国に誇るべき取組を視察することといたしました。	
調査内容	視察先	八王子市立高尾山学園
	調査項目	不登校の児童・生徒のための公立小中一貫校の取組
	選定理由	先進事例である本市の高尾山学園の取組と登校支援の状況について学ぶ
	概 要	不登校の児童・生徒のための体験型学校として、平成16年4月に開校。 登校状態に合わせて、心の安定を図りながら、適切な学習支援による基礎学力の向上と、体験的な学習や集団活動の機会を多く取り入れて社会性を養っている。
	視察の様子	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>取組の説明【黒沢正明校長】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>校内視察</p> </div> </div>
	主な質問	<p>【校内視察の後、質疑応答を行った。】</p> <p>問) 不登校のお子さんを家から外へ出すための取組について伺いたい。</p> <p>答) 学校、民生児童委員やスクールソーシャルワーカーなど、様々な方が関わり、適応指導教室「やまゆり」を経験し高尾山学園に入学するお子さんや、「登校支援チーム」の支援により在籍校に戻るお子さんなど、お子さんに応じた支援に取り組んでいる。</p> <p>問) スクールソーシャルワーカーの対応までに時間がかかるとも聞いているがどうか。</p> <p>答) 3日以上理由がなく欠席の場合は、個票システムにより、学校から登校支援チームに情報が入る仕組みとなっており、その都度スクールソーシャルワーカーが対応してい</p>

調査内容	<p>る。また、学校への巡回訪問により状況の把握等を行っているが、スクールソーシャルワーカーにつながらなかったことについては課題として考える必要がある。</p> <p>問) 不登校のお子さんは時間の概念がうすれているとのことだが理由などあるか。</p> <p>答) 理由は様々だが、時間できちんとやっていくのが苦手であることは共通している。環境を整え、自ら時間は守るものだと認識を持つことで時間の概念が育つと考える。</p> <p>問) 教員の精神的ストレスに対する取組について伺いたい。</p> <p>答) 月1回ドクター相談日を設け、専門医への相談や、「登校支援チーム」のスクールソーシャルワーカーに気軽に相談できるような体制を整えるなど、一人で抱えずチームで対応することを徹底している。</p>
委員長所感	<p>八王子市立高尾山学園は、「不登校の児童・生徒のための体験型学校特区」として、全国初の構造改革特別区域計画認定を受け、平成16年4月の開校以来、全国からの行政視察を受け入れてこられました。</p> <p>当委員会は、開校して15年以上を経た高尾山学園の現状と課題を把握すべく、学校長をはじめ関係者より説明を受けるとともに、児童・生徒の学校生活を視察しました。</p> <p>高尾山学園の児童・生徒の多くは、この学校に入学する前、様々な経験をしてきています。高尾山学園の教職員は、そうした児童・生徒を受けとめ、寄り添い、ともに進んでいくことで、児童・生徒が少しずつ学校生活を送れるようになっている現状を見せていただきました。</p> <p>また、学校長は民間出身としてICT技術に長けていることから、市内でも先進的にICT教育に力を入れており、その取組はGIGAスクールのモデルケースとなるものでした。</p> <p>高尾山学園の取組を通して、不登校の児童・生徒の受入れを専門とした学校の必要性を感じるるとともに、他の各学校に対しては、どうして児童・生徒が不登校になることがあるのかを検証し、日本の教育のあり方を今一度検討する必要があるのではないかと感じたところです。</p> <p>高尾山学園および八王子市教育委員会関係各位の取組に心より敬意を表します。</p>

八王子城跡

令和元年の台風第19号で崩落した参道橋の復旧状況なども確認



調査内容

(有)オカド染色工業視察の様子

山口琢磨社長から染色の歴史や染色工業の現状について説明を受け、工場内を視察。



委員長所感

令和2年6月、「霊気満山高尾山～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～」が東京都内初となる日本遺産として認定されたことを受け、市内のコースをたどることといたしました。

1,200年の歴史を誇る薬王院では、書院の見学なども行い、佐藤秀仁執事から丁寧な説明を受けました。

多くの来山者にとって高尾山が心の拠り所となっていますが、今回の視察を通じて歴史の重みを体感することができました。

また、八王子城跡につきましては、中世山城としては日本最大級の規模と言われており、今後の発掘調査が注目されています。これまでも、ベネチアングラスなどが発掘され、海外との積極的な交流が明らかになっています。陸の奥地に位置する八王子城で世界各国との交流が結ばれていたことに、驚きと感動で胸がいっぱいになりました。市内外の多くの方々に見学していただきたいと願っています。

最後に、オカド染色工業を視察し、「織物のまち八王子」ならではの全国でも有数の高い技術力を拝見いたしました。

八王子の織物は、いわゆる町工場によって成り立っていますが、こうした事業者が抱える課題は、後継者問題、販路拡大、設備の維持など、多岐にわたっていることを今回の視察を通して、改めて深く認識しました。

今後、八王子のものづくり企業の方々が安心して事業展開をしてもらえるよう、様々な支援制度を創設する必要があるのではないかと感じたところです。

結びに、今回の行政視察に対応くださった皆様に心より感謝申し上げます。